

盛岡と仙台で 約200人受講

日合協東北が講習会

日本アスファルト合材協会

東北連合会（野口典秀会長）

は、仙台市のハーネル仙台で
2025年度講習会を開いた



写真。前日には盛岡市のマ
リオスでも同じ内容で開催
しており、岩手・宮城両会
場合わせて約200人が受講
した。

講習会では、同連合会技術

委員の赤間俊浩ガイアート東北支店福島ふたばアスコン工場長が、25年度の安全衛生環境パトロールの結果を報告した。さらにENEOS産業エネルギー部コークス・アスファルトグループの井上和也氏が「舗装用アスファルトの供給体制と運送課題」、高速道路総合技術研究所の熊田一彦舗装研究担当部長と大持潤平舗装研究室主任研究員は「高弾性上層路盤用混合物（HiMA）の現在と今後の展開およびサイロ貯蔵」と題してそれぞれ講演した。

また、同協会技術部会員の佐川聡東亜道路工業技術部技術研究所主任研究員が「中温化剤・中温化アスファルトを活用した中温化混合物の製造・施工に関する調査研究」と「社会構造の変化に対応したアスファルト混合物の再生利用技術に関する共同研究」について紹介した。

